

目標達成計画

作成日: 平成23年5月11日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	身体レベルとして、利用者9名中、歩行散歩(往復20分)が最後まで出来る方が2名のみとなる。排泄自立においても、2名以外の方は、大小、介助が必要となり、夜間対応が困難な夜間も増えてきている(夜間、1人職員)。加えて、認知の面も進む。日中においても、職員の仕事内容が多くなり(掃除洗濯、食事作り、排泄介助、見守り支援、元気な方の訴えの支援、楽しみのレク、散歩など)ミニ施設化しつつある中、以前のような楽しみレク、散歩への時間の限りが出てきている。職員の心の余裕も心配となりつつある。	9名の方への支援が偏らず、全体に支援を送れるグループホームでありたい。夜間の危険リスクを少しでも減らしたい。余裕のある職場作りの中、笑顔があふれるなのはなへ。	職場体制を見直し、勤務時間の内容の見直し、職員の疲労感、思い、色々な角度から確認。この項目の2の利用者の方の処遇も考慮し、なのはなをどのように今後運営していくか、職員、責任者、そして上司へと話し合いしていきたい。	2ヶ月
2	33	前回の評価での目標達成がまだまだ不十分なところとして、利用者の方々のこれからの処遇について家族と真摯に話し合う時間を作っていく必要がある。言葉で表現が難しい利用者の方々の思いを一緒に暮らす職員が代弁として家族に話していくことも必要である。	レベルダウンした一人ひとりの最後の居場所を真摯に決めていきたい。	ターミナルという形を利用者、家族の環境に合わせてよく話し合い(連絡し合い懇談時間の設定)利用者の一人ひとりがどこで最後を迎えるかという具体的な話し合いへ。職員がよりよい送り人になりたい(全体としてかなりのレベルダウンです)。	6ヶ月
3	35	前回引き続き、災害時の毎夜の不安。	引き続き、「地域の力を借りる」。	昨年から地域運営推進会議と家族会を合同にしている。地域の方とのコミュニケーションを今後多くしていき、地域の人々に、より多くなのはなという施設を知ってもらい、災害時の応援につながるようにしていきたい。	6ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。